

# “トマトの高効率生産・地域内販売体制の確立” 及び“法人の農業参入支援”



生産においては、プロバイオシスと植物生理学に基づく農法と、IoTを組み合わせ、高品質かつ高収益の生産体制を確立。販売においては地域内で収益が確保できるモデルを確立し、「大規模生産・広域販売」ではなく、「高効率・高付加価値生産、地元商圏販売」のビジネスモデルを確立。また、法人の農業参入支援企業『JAMPS』とコンソーシアムを形成し、自社が現場で得た様々なデータを提供することで、農業参入希望者への支援を行っている。

## 事業の背景



### 法人の農業参入事業として始まったみつヴィレッジ

みつヴィレッジは櫛網干造船所の農業参入事業としてスタートし、現在では農業法人として独立している。トマト栽培で事業を開始したが、莫大な経営面積で実施することは経営リスクが高い。そこでいかに小さな面積で高収益をあげるかが重要な課題となる。特にトマトは、最新技術導入が進み競争が激化している。その中で高品質・高収量を実現

する生産の側面だけでなく、いかに高価格で売るかという販売まで見越したビジネスモデルの確立を目指した。また近年は、法人の農業参入が増えている。しかし大規模な投資をしても、蓋をあげれば赤字であることは珍しくない。そこで自社ノウハウを活かし他社の農業参入支援をしたいと考えた。

## 事業の内容



### 高収益モデル確立とそれを活かした他社支援

【独自の高品質・高収量生産体制】  
「プロバイオシスと植物生理学に基づく農法」は、生物を阻害するのではなく酵素等を活用し、細菌や微生物と共生しながら植物本来の力を引き出すことで病害虫に強い植物を育てる。この農法の確立により高品質で栄養の詰まったトマトを安定的に収穫することが可能となった。ハウス内環境は毎週管理計画を作成する。気温、湿度、気流、二酸化炭素、水分量など、各種環境因子をIT管理するだけでなく、異常性の検知からその原因究明・解決方法まで全てデータ管理し、栽培に活かすことで高収量栽培を実現した。これらを組み合わせた生産技術は日本初の取り組みとなる。

【地域に絞った高付加価値販売】

戦国時代と言われるトマト市場で、広域販売し価格競争を行うのではなく、地域に絞り、自社トマトの価値を訴求するモデルを実施。価格や機能だけでなく、コンセプトやストーリー性、社会性を訴求する手法を確立したことで、価格競争に巻き込まれない販売を実現した。

【他社の農業参入支援】

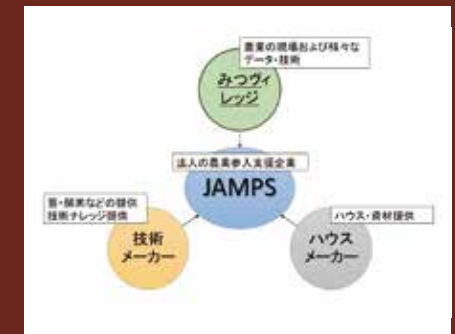
みつヴィレッジは、独自の生産体制や販売体制を確立することで農業法人として収益をあげている。一方、その生産方法や販売方法は、自社のためだけに用いるのではなく、後述するコンソーシアムに現場ノウハウを提供することで、他社の農業参入の支援のために活かしている。

## 事業取り組みの成果



### 小さな面積でも効率的に収益確保が可能なモデル

法人の農業参入では最初から広大な面積で経営を行うことは難しい。本事業で確立した高品質・高収量の生産に加え、高単価での販売を行うことで、小さな経営面積でも高収益を得られるモデルが確立された。“収益=収量(生産面)×販売単価(販売面)”であるが、生産面において収量が平均の約2倍、販売面においても販売単価が平均の約2倍となり、その結果、経営面積10aの収益は、業界平均の4倍以上となった。なお、販売においては地元商圏に加え直接販売の比率を高めたことで高単価販売を実現している。また顧客が求める情報を精査しPRを行うことで販売促進につなげている。



【ビジネスモデル】

### 法人の農業参入を支援するコンソーシアムの形成

法人の農業参入は近年増加している。トマトは技術革新が進んでおり、未経験であっても生産が可能な品目として選択されやすい。

しかし初期投資が高いにもかかわらず、収穫量や品質が想定以下、販売すると単価が低かったなど、実際は法人の農業参入は黒字にならないことが多い。そこで法人の農業参入を支援するためのコンソーシアムを形成した。支援企業である(株)JAMPSに、みつヴィレッジの代表である八百伸弥がメンバーとして加わり、生産・販売などのプロと共に、農業を本気で事業の1つの柱として考える企業に対し、農地選定から、事業計画、施設計画、栽培サポート、販売サポートまでを一貫して行っている。



【農業参入支援コンソーシアム】



## 今後の展開

みつヴィレッジはトマトだけでなくイチゴのビジネスモデルも構築している。まずはこの2つのモデルの精度を高めていき、自社の発展だけでなく、新規参入者の支援も拡大させていく。農業は単に生産して売るだけではない。本事業のようにコンソーシアムを形成すればどんどん可能性が広がる。体験、観光、農育、飲食など、姫路を中心に農業を主軸にした農業ビジネスを展開していく。



代表取締役 八百 伸弥氏氏

### 農業の可能性を追求していく

1次産業には様々な可能性があると考えています。農業を生産して販売するだけのものと考えず、他社とコンソーシアムを形成すると、急激に広がりが出てきます。農業の可能性を追求し、日本で儲かる農業を作っていきたい。それが出来ればアジア、ヨーロッパ、アメリカと展開し、最終的にはアフリカまで到達し、世界の食糧事情改善につなげていくことが夢です。そのためには目の前の第一歩だと考えています。地域にこだわって、農業を発展させていきたいです。